

# 9条にノーベル賞「神戸の会」

## 「良心者」(コンチ)が叫ぶ



記者会見で語る水垣氏

「憲法9条にノーベル平和賞を」の運動が、神戸で活気を帯びてきている。「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会(推す会)」は、オスロに1月30日、憲法9条がノーベル平和賞受賞の価値があることを有資格者である大学教授などが発信し、全国からの111名が連名で推薦状を提出した。2月21日に神戸で行われた記者会見は、一般紙でも報道された。「推す会」の総理事岩村義雄氏からのレポートを掲載する。

「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」は昨年、受賞者を「日本国民」(Japanese citizens)として提出しましたが、今回は、受賞の可能性を高めるように「日本で憲法9条のために取り組む団体」にシフト。「ノーベル平和賞ウォッチャー」として知られる国際平和研究所(オスロ)のハルブビケン所長は2014年の平和賞で、憲法9条を守る日本国民を最有力と予想していました。しかし、今年2月3日、同所長は日本

岩村(エラスムス平和研究所所長)は、「良心者」(英語 conchie「兵役拒否者」)は黙視できませぬ。戦争への道を歩み出した政府の歯止めとして、再び戦争をしない」という約束を世代から世代へとつなぐ地道な活動を続けたい」と述べました。

常任委員たちも提言しました。家正治(神戸市立外国語大学名誉教授、勝村弘也(神戸松蔭女子学院大学教授)、宮本要太郎(関西大学教授)、村田充八(阪南大学教授)、樋口進(関西学院大学教授)、新免貢(宮城学院女子大学教授)の各氏は何度も会合を積み重ねてきました。

戦争の放棄、武力の保持を定めた憲法9条は、戦争の惨禍を経て、計り知れない犠牲の上で生み出された、何物にも代えがたい尊い宝、人類の英知の到達点、後世に残すべき遺産であると考えます。

戦後70年間、憲法9条があったからこそ、私たちが日本国民は一度も戦争を行わず、戦争で1人として命を失ったり、奪ったりすることがありませんでした。世界中が武器を片手に武力で物事を押し進めようとする圧力の中で、私たちは過去の戦争への反省と痛みを胸に、世界中の人々の幸せと平和を願い、憲法9条を保持して

きました。

「強い日本」より、他国に愛され信頼される日本こそ私たちの幸せの基礎と信じています。軍隊をもたない21以上の国々でも日本の「憲法9条」は垂涎の的です。子どもたちに戦争のない地球を守り伝えるための9条を世界の宝として共有できるように市民運動をします。公開講座、セミナーをしながら、オスロへの推薦人を引き続き募っていきます。

詳細は「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」ホームページを参照。問い合わせ、V070・5045・7127(岩村)。